

## オンラインでインプロを体験してみよう！ —演劇的知を教育実践に—

仙石桂子 ・ Gehrtz 三隅友子  
(四国学院大学) ・ (徳島大学教養教育院)

### 1. インプロの学びが直面する状況

新型コロナウイルスの感染拡大により、文化芸術は大きな打撃を受けた。神山(2020)は「音楽や映画はオンラインでも楽しめるが、仕込みが複雑で登場人物が多い演劇は、オンラインによる公演配信もまだ実験的な段階で、リアル公演に代わる救世主とは言い難い。」と述べ、また大学教育に関しては、朝日新聞(2020年8月24日)によれば、多くのオンライン授業への課題として、9割以上の大学が「実験・実習・実技系科目への対応」に苦慮している。

一方で近年の「アクティブ・ラーニング」や「主体的・対話的で深い学び」といった、学習者が能動的に、また相互にかかわり合って学ぶ方法が推進されてきている。渡辺(2020)も「学びを、より生き生きとした、より深いものにするために、演劇的手法を」と述べている。普段教室や劇場内で行われている演劇的手法を用いたワークショップやグループワークはまさに「実技系」である。ただし、コロナ禍の現状では演劇的手法を何も制約のないまま行うのは難しい。即興演劇(以下インプロと呼ぶ)は、その場の状況・相手にすばやく柔軟に反応し、仲間と共通のストーリーが作れるようになり、直観的知識(註)に達するための手段である。つまり、インプロは毎回何が起きるかその場の状況でしか分からず、自然発生的に起きることを大切にしているため、接触するシーンになる可能性も否定できない。オンラインという手段を使えば、マスクを外し、身体を使いながら画面上で相手と向き合うことが可能である。オンラインでの新たな学びの可能性を今こそ探る必要があるだろう。

### 2. 演劇的知とは

安田(2007)は「演劇的知」を次のように三つに

分け、「一、個体としての身体に気づく教養。二、生活している社会に気づく教養。三、歴史の中に生きていることに気づく教養。」としている。演劇的手法を活用した学びは、単なる知識のやりとりといった一面で捉えるのではない。ことばに支えられる知識のみならず、演劇的知を使い学びを全身化しながら、その後にもまた「なってみる学びから得る知識」を自ら気づき獲得するものである。

### 3. オンラインで演劇的知を取り入れる可能性

発表者の二人(各々の専門は演劇教育と異文化理解及び日本語教育)は、現在演劇的知を使った教育活動をオンラインにて行っている。現在大学の講義の中で、日本人学生・留学生・一般を対象にミニドラマの作成と上演といった、本来ならば舞台で行う演劇活動を ZOOM を使い動画にし、振り返る実践である。

今回は、インプロの中でも CROW(登場人物・関係性・目的・場所)を決めて演じることにより、演劇的知とは何かの体験を参加者で共有する。

ワークショップ前半はアイスブレイク、その後物語づくりから自分とは別人の役割を演じる、すなわち「なってみる」ことを体験してもらう。そして目の前にある世界とは別の世界を他の参加者と共有し、経験する。まずは共に学びを全身化する体験をしてみたいという多くの方(教員・職員・学生・学習に関心のある一般等)の参加を期待する。

註：体験に対する反応が直感レベルで起こる時、制限の多い知的レベルを越えて個人が活動する時に得る知識。

参考文献：

- ・渡辺貴裕・藤原由香里「なってみる学び 演劇的手法で変わる授業と学校」 2020 時事通信社
- ・安田雅弘「思想」 2007 5月 岩波書店

**資料**：インプロヴィゼーションとキース・ジョンストン

## インプロとは？

＜英語のインプロヴィゼーション（improvisation：即興）という詞が省略されてできた言葉。俳優たちが脚本も、設定も、役も何も決まっていな中で、その場に出てきたアイデアを受け入れ合い、ふくらませながら、物語をつくり、シーンをつくっていく演劇である。＞

## 1. ジョンストンについて

1933年イギリス南部のブリクサムで生まれる。11歳の時に文字や数字を記憶することが困難になり、学校に適応できなくなる。図書館での独学の後18歳でロンドンに出て、美術教師となる。赴任先の小学校で問題児の学級を担当し適応できないとされる子供たちに驚くべき能力を発見する。その後、知り合いの紹介で戯曲の執筆に関わる。劇作家グループの非生産的な議論をよそに、議論よりも実際に演じてみることを行い、これがインプロとなった。演劇学校での指導の中で授業を超えて稽古場での参加者の笑いと面白さがインプロ劇団を作るまでになる。世界各地でインプロを教えながら、活動の場をカナダへと移しカルガリー大学を経て、インプロの創始者として、開発したゲーム、エクササイズ等をもとに現在でも世界でワークショップを行っている。

## 2. ジョンストンのインプロの方法論 と3. ジョンストンの教え方の特徴

大人を「萎縮した子ども」と考え、そもそもすべての人がもっている創造性をよみがえらせることを目指す。この創造性の中で、自然発生(spontaneity)と想像(imagination)の二つのキーワードを用いる。大人になると自然発生は、社会的こころ(Social mind)によって抑制されてしまう。以下にあげる恐れが自然発生を抑えるとしている。

## ①失敗への恐れ ②評価への恐れ ③未来・変化への恐れ ④見られることへの恐れ

これらの抑制に対応するために、ジョンストンは「ふつうにやる・がんばらない・独創的にならない・あたりまえのことをする・賢くならない・勝とうとしない・自分を責めない・想像の責任を取らない」と言う。検閲が奥に引っ込む。

## 4. ゲームの例 (さしすせそ禁止ゲーム/ワンワード/次、何をしますか?)

## 5. 教えるときの工夫 と 6. 学び場作り

## ①カリキュラム ②教師の態度 ③教師と生徒の権力関係 ④段階の進め方 ⑤逆の教え方

## 7 ジョンストンの本

・ Impro: Improvisation and the Theatre(1979) ・ Impro for Storytellers (1999)

## ＜まとめ＞ インプロとは

主目的： 人がもともともっている創造性や表現力を引き出す

理論の特徴： 自由な創造性や表現力を検閲する恐怖をなくしていく

方法論の特徴： ゲームを中心として、ストレスのない学びの空間で学ぶ

『ドラマ教育入門<キース・ジョンストン>』高尾隆著 76-86頁を発表者らがまとめて引用